

# グルマーイの言葉についての瞑想

イーシャ・サーデサイ

## 「古いものは金」

多くの皆さんがご存じの通り、グルマーイが教えを伝える一つの方法は、グルマーイが人々と交わす、また人々がグルマーイと交わす一見何気ない会話を通してです。こうした会話は、しばしば軽やかで、楽しく、とても温かいものです。しかし、その重要性はどれだけ誇張してもし過ぎることはできません。多くのシッダ・ヨーギが言うように、グルマーイの前では、一瞬一瞬が教えの瞬間なのです。

マカラ・サン克蘭ティのサツァングで、グルマーイは最近交わしたそうした会話の一つを分かち合いました。ある人が、多くの人が年を取ってきたことに気づいている、とグルマーイに話したそうです。グルマーイは、その人が自分にそう言うのが実に興味深いと感じたことを思い出して、笑みを浮かべました。グルマーイが言ったように、彼女自身も何十年も前に生まれたのです！

グルマーイがその時授けた教えは、私にとってとても意味深いものでした。彼女はこう言いました。「なぜ若者が老人を心配する必要があるのでしょうか？なぜ老人は老いていくことを心配する必要があるのでしょうか？」

この教えは禅宗の公案のようだと感じます。一方で、そのような心配をする意味があるのでしょうか？本当に必要なものなのでしょうか？また一方で、若者は年老いていく人々を気遣う責任がもちろんあります。同時に、年長の世代は若い世代に知恵を分かち合う責任があります。こうした相互のギブ・アンド・テークは、私たち人間社会、私たちが築いてきたコミュニティーの中に組み込まれています。これこそがグルマーイが教えを通して伝

えていたことだと思います。つまり、そこには育み続けていかなければならない世代間の思いやりの循環があるということです。

これがグルマーイの真意であったと私が確信している理由の一つは、若者と年長者が共に集うよう励ますためにグルマーイが尽力してきた、数え切れない話をシッダ・ヨーギたちから聞いてきたからです。一例を挙げると、1999 年の夏、グルマーイの要請で、そして彼女の要請と指導の下、シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムにて、10 回にわたる「世代を超えたサーダナー・サツァング」が開催されました。これらのサツァングの中で、参加者たちはシッダ・ヨーガのサーダナーについて、それぞれの視点や体験を分かち合いました。若者は、年長者が積み重ねてきた知恵から学ぶ機会を得ました。年長者は、若者の熱意や新鮮なアイデアに刺激を受け、元気づけられました。それは参加したすべての人にとって大きな喜び——まさに「ウィンウィン」の体験となったのです！

比較的若い世代であり、シッダ・ヨーギの先人たちから受け継がれた知識から多大な恩恵を受けてきた者として、私もまた、グルマーイの言葉はこうした先人たちの存在に感謝の気持ちを表す励ましとして受け取りました。グルマーイが「古いものは金」という哲学を好きだと言った時——そして太陽であれ非常に古いことに言及した時——私はまさに考えさせられました。「ああ！ 太陽の年齢はおよそ 45 億 7 千万年！ そして、地球上に生命が存在してきた長い間ずっと、太陽の光は生命を支え続けてきたのだ」と思いました。

年長の世代が成してきたすべてのことに思いを巡らせ、それを心に留めておくのは素晴らしいことです。私は、自分より 20、30、40、そして 50 年も年上の方々と共に、セーヴァーをささげ、サーダナーを行う機会に恵まれてきました。シッダ・ヨーガの使命に対する彼らの貢献の大きさを考えると、謙虚な気持ちになります。私が今できていること——この素晴らしい使命のために自分の技能をささげること——は、彼らが築いてきた基盤のおかげであり、彼らがバーバ・ムクターナンダとグルマーイにささげ

てきた長年の献身的なセーヴァーのおかげです。そしてその間ずっと、彼らのサーダナーはただ成熟していくばかりでした。その知恵はますます洗練され、価値あるものとなり、何よりもその知恵を、私や他の若いシッダ・ヨーギたちに惜しみなく分かち合ってきたのです。

私の願いは、シッダ・ヨーガの道を歩む若者が、年長者の中に彼らが生きてきた人生のすべて、成し遂げてきたことすべて、そしてこの世界に与えてきたすべてを見いだすことです。そして同時に年長者も、若者が理解を深め成長していくためのインスピレーションをこれからも与え続けることができると思っています。年長者が与えるべきもの、そして与える責任があるものは、計り知れないほど貴重です。いかなる知性や才能、早熟さをもってしても、時間——つまりこの地上での長年にわたる体験——に取って代わることはできません。

年齢というテーマに関連して——身体が若いうちに精力的にサーダナーを行うことについてのグルマーイの言葉も心に留めました。グルマーイは、サーダナーにとって身体がいかに重要であるかを、常に強く意識することの大切さを語りました。人々から耳にする、いわゆる「幽体離脱」体験の話は魅力的かもしれませんが——しかし、先ほども書いたように、私たちのこの身体、このマインド、この吸う息と吐く息を通してのみ、私たちは精神の道において持続的な進歩を遂げることができるのです。身体を大切に努力を惜しまなければ、身体はサーダナーにとって最良の支えになると、グルマーイは言っています。

若い頃は、身体健康やマインドの機敏さを、つい当たり前のようにながちです。私たちは、単に異なる現実が現在の概念や体験の外にあるというだけで、永遠にそう感じ続けると錯覚しがちです。しかし、新しい現実と直面するまで待つ必要はありますか？ そうでしょう？ 私たちにできる最善のことは、今ある私たちの能力を活用することです。私たちは、持っているエネルギーと活力を生かし、それをサーダナーに注ぐことができます。

グルマーイは若い身体を持っている時に何をすべきかについて具体的に話しましたが、私はこの教えはより広い範囲に当てはまると強く感じています。実際のところ、私たちが何歳であろうと、今より若くなることは決してありません。私たちは年を重ねていく一方です。そして、どこまで年を取るのか、また、これからの人生でどのような運命や境遇の変化が訪れるのかも分かりません。従って、サーダナーを行う理想的な時は、常に今なのです。

「今」。何ともシンプルな言葉です。たった一文字です。しかしこの一文字の言葉は、その胎内に計り知れない約束を秘めています。それは可能性に輝き、何か偉大なもの、何か晴れやかなもの、実現を切望する何かとても神聖なもののささやきに輝いています。それが本当に実現するかどうかは、私たち次第——この瞬間、この「今」をつかみ取るかどうかにかかっています。

グルマーイは「Waiting for That Perfect Moment（その理想の瞬間を待つ）」という詩の中で、まさにこのことについて語っています。もう一度読んでみたいと思いませんか？

